

相手の立場に立って謝ることで、自分のプラスになる

よく、謝るのはソンだとか、謝るのは苦手という方がいますが、少なくとも日常生活では、謝ったからといって何もソンすることはありません。逆に「自分から『ごめんなさい』と言うことでトクをするし、自分のプラスになりますよ」と、私はいつも伝えています。

「負けるが勝ち」という言葉もあります。ソンとかトクとか言いますが、自分から謝るのは「損得」ではなく、「尊徳」です。つまり尊い徳を積むこと！

誰だって謝りたくはないもの。でも、そこをあえて相手の立場に立ち、相手を思いやって謝るのです。その気持ちは尊徳となつて、必ずあなたに返ってきます。自分自身が成長したり、人に好かれたり、何か具体的なお褒美としてプラスを得ます。

大事なのは、相手の気持ちを理解したうえで、何について謝るのかをはっきりと伝えて謝ること。

たとえば「あなたを不快にさせてしまい、ごめんなさい」と謝る（起きたことのは

非には触れず、気持ちの部分に対して謝っています）。もちろん、ただ言えればいいというのではなく、気持ちを込めて、（潔く）心から謝ることです。

クレームをつけてくる人も、「嫌な思いをさせて申しわけありませんでした」のひと言さえあれば、気持ちがおさまるケースがほとんどです。どんな場合でも「ごめんなね」「申しわけない」は、タイミングを逃さず、心を込めて伝えたいものです。

